



あらゆる賞賛は、世界、宇宙の主であられるアッラーのもの。アッラーは、しもべが主を心から思っ
て行う行為を受け入れられる。アッラーは、比べ得る何ものも存在しない唯一者であられる。私は、アッラー
の外に崇拝する存在はないことを証言し、また、ムハムマドは、アッラーのしもべであり、使徒であるこ
とを証言する。

信者たちよ。アッラーは、クルアーン・戦利品章において述べておられる。

「信仰する者よ。もし、お前たちがアッラーを畏れるならば、その御方は、お前たちに判断力を与え、お
前たちの諸悪を消滅し赦して下される。誠に、アッラーは、偉大な恩恵の主であられる。」(8章 29節)
アッラーの荘厳さというものは、常に尊ばれるものであり永遠のものである。アッラーの創造と、アッ
ラーが人々に与えて下される祝福と恩恵は、確かなものである。大権とあらゆる賞賛は、その御方のもので
ある。

アッラーは、クルアーン・大権章及び識別章において述べておられる。

「大権を掌握なされる御方に祝福あれ。…」(67章 1節)

「天に諸星座を配置し、その間に太陽と照らす月を置かれた御方に祝福あれ。」(25章 61節)

創造というものの中で、特筆すべきは、人間を最も美しい形の生き物に創られ、最良の配慮を下さったと
いうことである。そのことについて、至高のアッラーは、クルアーン・赦し深い御方章において述べてお
られる。

「…お前たちに見事な姿を授け、形作り、色々な良い御恵みを授けられた御方である。これが、お前たち
の主アッラーであられる。万有の主アッラーに讃えあれ。」(40章 64節)

信者たちよ。預言者さま SAW は、主アッラーを賞賛なされるのを常とした。人間を創造なされ、聴覚や視
覚を与えて下さった御方アッラーに信者たちは、平伏する。それによって信者たちは、教えに従順であり、
感謝することを表明するがよい。アブー・フライラは、アッラーの御使い SAW は言われたと伝えている。

「次の言葉、即ち、『アッラーの他に神はなく唯一者にして比べるべき者はいない。主権は、アッラーにあ
り、讃美すべきは、アッラーのみ。アッラーは、万能な御方であられる。』を毎日一回唱える者には、100
度の善行と記録されると共に、彼に関する記録簿から100の誤まちが消される。また、この言葉は、その
日の夜まで、悪魔からのお守りとなる。また、『アッラーを讃美します。賞賛すべきは、アッラーのみです。』
と毎日100回唱える者は、たとえ海洋の泡ほどに罪が多くても、犯したその罪を抹消される。」



誠に、信者の心に主を賞賛する気持ちが増したならば、その者は、信仰心がしっかりと心に留まり、献身的な気持ちがしっかりとなくなったことに気づくだろう。アッラーは、そうした信者を愛され、祝福を増やされる。そして、その祝福は、その信者の生活に係わって来るだろう。

それに関連し、アッラーは、預言者イーサー（平安を）についてクルアーン・マルヤム章において述べておられる。

「また、その御方は、私（イーサー）が何処にいようと祝福を与えます。また、生命のある限り礼拝を捧げ、喜捨をするよう、私に命じられました。」（19章 31節）

至高のアッラーは、祝福された書クルアーンを人々に下され、その中で御自身を賛美しておられるのであるが、誰でもその書を手にし、熱心に読誦する者には、祝福、恩恵が与えられ、アッラーの慈悲により樂園へと導かれる。アッラーは、クルアーン・家畜章において述べておられる。

「だが、これ（クルアーン）は、われが下した祝福された啓典である。だから、これに従って、お前たちの義務を尽くしなさい。きっと、お前は、慈悲に浴するであろう。」（6章 155節）

「神聖とは、アッラーのこと」という言葉の意味を確かに知ることにより、我々は、アッラーの崇拝に値する価値や崇高さについて知ることが出来き、そして、アッラーの創造の独創性にたういて気づくこととなるだろう。

預言者ムハマド、教友とその一家に祝福と平安がありますように。そして、正当なカリフ、アブー・バクル師、ウマル師、ウスマーン師、アリー師と、正しい道に従う者たちに、祝福と平安がありますように。

アッラーよ。あなたさまからの恩恵を知り、あなたさまを賞賛する者であるように御導き下さい。

アッラーよ。あなたさまを愛し、預言者さま SAW を愛する者であるように御導き下さい。

アッラーよ。預言者ムハマド SAW に従い、イスラームの教えを守る者にして下さい。

アッラーよ。私たちの信仰心を強くして下さい。私たちの過ちを御赦し下さい。

アッラーよ。仕事に成功を、そして安心と安全を御与え下さい。 アミーーン